

●大豆よ育て! 納豆にして食べちゃおう!(1年生)

小学校に入学して毎日が初めて体験することばかりの1年生が、生き物を育てる最初の活動をしたのがこの「大豆栽培」でした。種をまくこと、世話をすること、観察することなどすべて新鮮な体験ばかりでした。大豆は身近で、子供たちは大変興味深く(食べることが中心ですが)取り組むことができました。栽培を始めるときは、実際に農業試験場に行き、栽培計画を立てることから始めました。6種類の種をまき、育ち方、葉や花や実の違いなどを比較し、個人で観察しました。

農業試験場で種のまき方の指導を受けた後、学校に持つて帰り、ベランダで育てました。頂いた大豆の種は畑にまきました。管理は一人一人に任せましたが、観察は少し変化が起きた頃、だいたい10日に1回程度、観察シートに記入しました。観察していく中で、芽が出てきて、双葉になり、本葉が出てきて育ちに差が見られるようになりました。子供たちは葉が3枚ずつ出てくるのにびっくりしていました。

途中、夏休みになり、個人の大豆は家庭に持ち帰りました。子供たちだけで観察するのはとても難しいので、家の人の協力を仰ぎました。茎の高さと葉の枚数を表に書き込み、変化が出たとき(花が咲いた、実がなったなど)に観察シートに記入します。夏休みが終わると、大豆について大変詳しく調べた子や、写真を撮った子など(もちろん枯らしてしまった子もいました)もいて、みんな熱心に観察していました。自分の大豆にとても愛着を持って接していたようです。

大豆の実が、学校の畑ではまだ小さかった頃、一人の子が大事そうに持っていた包みを「ぼくの大豆だから、来年もまくんだ。」と話して見せてくれました。自分で育てて実にし、乾燥させた大豆でした。とても大切にしていたのですぐに家に持つて帰りました。大豆になったのはその子が初めてでした。それをみて、今度は他の子が「わたしのは・・・」、「ぼくのは・・・」と、自分の大豆の状態や実のなり具合などを話し始め、周りは大騒ぎでした。

とれた大豆は、話し合いの結果、納豆にして食べることにしました。納豆作りに決まるとき、自主的に本で調べたり、家人に聞いたりする子が出てきてみんなやる気満々。作ったことがある家人に教えていただきながら作りました。

みんなで育て実にし調理したことで子供たちは大満足でした。

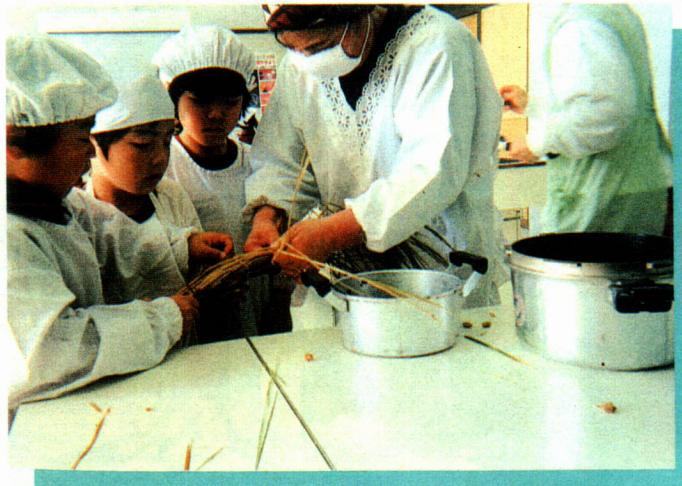
最後に、一人一人が「大豆の育ち方」や「納豆の作り方」などを本や図物にまとめました。自分たちで育て、収穫し、食べるという一つの流れの中で、植物の育ち方についてはもちろん、自分で育て作ることの楽しさ、最後までやり通す大切さが実感できたようです。春が来たらまた育てたい、別な種をまいて育てたい等、意欲的です。

(レポート:1年担任 時田 福子)



▲一年生の大豆

「葉っぱは3つづつ出るんだね」



◀ 納豆づくりに挑戦

「ほかほかごはんでも
食べるんだ!」

